

# 論文の内容の要旨

論文題目 大学の属性を考慮した大学図書館蔵書の特徴  
の分析: 所蔵図書の数と属性に着目して

氏名 山田 翔平

本研究では、大学図書館蔵書の実態を記述した。経済学、理学、文学、工学の4つの学問分野を取り上げ、分野ごとに関連のある学部を有する大学を対象とし、大学の属性を考慮しつつ、蔵書进行分析した。大学の属性としては、主に大学生に意識される大学の違いに関わる属性を取り上げた。これを通して、大学の属性の違いと大学図書館の蔵書の関係を記述的に明らかにした。

第1章では研究の目的、枠組み、意義、背景について述べた。本研究では、多様な大学との関係に置かれる大学図書館蔵書の実態を明らかにするという問いを設定し、大学図書館蔵書の実態をこれまでよりも高い解像度で記述することを目的とした。記述の視点として利用者の視点を設定し、大学図書館の利用者として大学生を想定した。大学との関係を問う上で、大学の属性を考慮することが求められる。本研究では、大学生に意識される属性として、偏差値、設置形態、所在地の3つを取り上げた。本研究の意義は、大学図書館蔵書を、その性質が把握できるような解像度で記述すること、まさにそのことである。現状では、大学図書館蔵書について説明を与える研究や、蔵書を要因として組み込む研究の前提としての、蔵書に関する調査と記述自体が不足している。そのような現状に対して、本研究は大学図書館蔵書に対して説明や解釈ではなく、解像度の高い記述を与え、今後の精緻な議論や分析の拠り所となる基盤を提供する。

第2章では関連研究を概観した。近年の日本の大学図書館研究、大学図書館蔵書研究、及び日本の大学類型論の3つについて、それぞれ文献をレビューをした。近年の日本の大学図書館研究について課題を整理した結果、複数の大学図書館を対象に調査、分析を行う研究について大学との関係で問う研究が少ないことが示された。大学図書館蔵書研究については、目的の観点から概観し、成果と課題を整理した。課題を整理した結果、大学図書館蔵書について、1. 大学の属性から見た大

学図書館の蔵書の特徴、2. 資料の属性から見た大学図書館の蔵書の特徴、3. 大学図書館に所蔵される資料全体の特徴の3点がこれまでに十分に明らかにされていないことが示された。本研究はこれらのうち1と2の不足を補うものである。日本の大学類型論については、本研究の分析で用いる大学の違いを導出する前段階として整理した。類型化の課題として研究者以外の視点から大学を捉えた類型化がないことが得られ、大学生の視点から見た大学類型化については新たに検討する必要が示された。

第3章では研究の対象、方法について述べ、次章以降の分析に先立って基本的なデータを提示した。対象とする資料は図書とし、その定義を印刷資料であり、49ページ以上であるものとした。さらに、図書のうち本文言語が日本語のものに絞ることとした。図書のデータは、国立情報学研究所の目録所在情報サービスが提供する図書書誌データセット（2017年4月公開のもの）を使用した。分析で着目した資料の属性は、日本十進分類法（NDC）、日本図書コードの分類コード（Cコード）、ページ数、価格、出版年、出版者である。

大学については、学校教育法に基づいて設立される大学を対象としたが、第103条で規定される大学院のみの大学、及び第108条で規定される短期大学は除いた。大学のデータは、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コースが作成した2016年度版大学情報データベースを使用した。大学生の意識する属性については、大学生になる直前の段階である大学受験者に注目し、大学受験者が大学選択の際に意識する大学の違いを参照した。高校生の大学選択に関する2つの調査資料を参照して大学選択において重視される項目を整理し、大学情報データベースのデータと照らし合わせながら、分析に用いる大学の属性を抽出した結果、学部の偏差値、設置形態、所在地の3つの属性を得た。

本研究では、これらの属性の違いによる蔵書の違いを捉えやすくするために、経済学、理学、文学、工学の4分野を取り上げ分析した。学問分野ごとに、関連する学部を有する大学を取り出し、分野に関連のある蔵書を分析対象とした。関連する学部は、経済学は経済学部、理学は理学部、文学は文学部、工学は工学部とした。各分野に関連するタイトルの設定には、NDCを参照した。大学によっては複数の図書館・図書室があるが、本研究では、一つの大学を一つの図書館機構と捉えている。分野ごとの最終的な対象校は、経済学120校、理学41校、文学103校、工学97校となった。

本研究では、属性ごとに大学群に分け、各群の特徴を観察するとともに、群間で蔵書を比較した。比較に際しては、

#### I. 所蔵タイトル数の違い

#### II. 異なりタイトルの構成の違い

の2つに着目した。異なりタイトルとは、特定の大学集合について、その集合を形成する大学いずれかに所蔵のあるタイトルの重複を取り除いた集合と設定した。各分野で分析対象とした異なりタイトルの総数は、経済学で97,273タイトル、理学で53,369タイトル、文学で170,926タイトル、工学で113,574タイトルであった。分野ごと対象とした大学の所蔵タイトル数の記述統計量は表1にあるとおりである。所蔵タイトル数の比較においては、記述統計量と正規Q-Qプロットを参照

分野	学校数	平均値	中央値	標準偏差	変動係数
経済学	120	18,734.14	16,814.00	9,089.98	0.485
理学	41	20,287.34	18,732.00	6,047.93	0.298
文学	103	19,179.83	16,528.00	11,973.22	0.624
工学	97	17,871.99	15,919.00	9,135.37	0.511

表1 学問分野ごと全大学の所蔵タイトル数の記述統計量

した。群分けは、偏差値では、60以上、50以上60未満、50未満の3群に、設置形態では、国立大学、公立大学、私立大学の3群に、所在地では、都市部とそれ以外の地域の2群に、それぞれ分けた。所在地の都市部は、政令指定都市に東京特別区を加えた21大都市とした。

第4章から第7章では分野ごとに偏差値、設置形態、所在地の順に分析を行った。以下に各章で示された主な特徴を挙げる。

第4章では経済学分野の分析を行った。偏差値に関しては、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態に関しては、国立大学は所蔵タイトル数が安定して多くなっていることや、私立大学は所蔵タイトル数の散らばりが大きいことが示された。所在地に関しては、NDC第3次区分の分類ごとの所蔵タイトル数の違いについては群間の違いのパターンは類似していることや、価格・出版者の観点から見た異なりタイトルの構成について差異はないことが示された。

第5章では理学分野の分析を行った。偏差値に関しては、偏差値中位程度の大学の所蔵タイトル数は近いことや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態に関しては、公立大学は2校のみと少ないが所蔵タイトル数は高水準にあることや、国立大学は45（地球科学・地学）の所蔵タイトル数が多い傾向にあることが示された。所在地に関しては、44（天文学・宇宙科学）から48（動物学）では、21大都市の群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあるが、これらの分類に比べれば、41（数学）、42（物理学）、43（科学）では、群単位の所蔵の様態に違いがないことや、その他の地域の群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が低いことが示された。

第6章では文学分野の分析を行った。偏差値に関しては、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方が価格の安いタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態に関しては、国立大学は、92（中国文学）、94（ドイツ文学）、95（フランス文学）の所蔵タイトル数が安定して多い傾向にあること、公立大学は国立大学・私立大学に比べてCコード第1桁1（文庫）の所蔵タイトル数が少ない傾向にあることが示された。所在地に関しては、NDC第2次区分の分類ごとの所蔵タイトル数の違いについては群間の違いのパターンは類似していることや、その他の地域の群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が低いことが示された。

第7章では工学分野の分析を行った。偏差値に関しては、偏差値中位程度の大学の所蔵タイトル

数は近いことや、偏差値の高い群の異なりタイトルでは 51 (建築工学・土木工学) の占める割合が高いことが示された。設置形態に関しては、53 (機械工学), 54 (電気工学), 55 (海洋工学・船舶工学) では、他の第 2 次区分の分類に比べて群単位の所蔵の様態に違いがないことや、国立大学の異なりタイトルは価格の観点から見ると幅広いタイトルを含んでいることが示された。所在地に関しては、21 大都市の群の方が全体・第 2 次区分の分類ごといずれで見ても所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、異なりタイトルの内訳は NDC・C コードいずれの分類で見ても違いがないことが示された。

第 8 章では総合分析として、大学の属性ごとに学問分野によらず共通して見られる蔵書の特徴、学問分野ごと大学の属性による蔵書の特徴、学問分野ごとの蔵書の性格の 3 点を、4 章から 7 章までの分析結果から整理した。大学の属性ごとに共通して見られる蔵書の特徴のうち主なものを挙げる。偏差値に関しては、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることが得られた。設置形態に関しては、公立大学の異なりタイトルの内訳・構成が国立大学・私立大学に比べて異なる傾向にあることが得られた。所在地に関しては、C コードの分類で見た異なりタイトルの内訳、及び出版年・出版者の観点から異なりタイトルの構成は似ていることが得られた。

第 9 章では 8 章で整理された大学の属性ごとに共通して見られる蔵書の特徴について考察を加えた。また、改めて本研究とその成果の意義を提示し、最後に今後の課題を述べた。